

小豆島中央病院だより

平素より当院の運営に格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。おかげさまで2016年4月の開院から7年が経過し、8年目を迎えることができました。

小豆医療圏の人口推計（2017年、国立社会保障・人口問題研究所）によりますと、2030年には2020年に比べ総人口が16.8%減少し、65歳以上の人口も10.7%減少する中で、75歳以上の後期高齢者は9.7%増加すると見込まれています。当院を受診される患者層を考えると、今後10年程度は当院に対する医療ニーズはあまり変わらないものと思われます。

当院は島内唯一の急性期病床を有する病院として、救急・災害医療、周産期・小児医療、感染症・結核医療、透析医療など政策的医療をはじめ、急性期から慢性期にかけての基本的な医療の提供体制を維持しなければなりません。

救急・災害医療については、島内で発生したほぼすべての救急搬送（年間1000件程度）に対応していますし、島内唯一の災害拠点病院でもあります。また、周産期医療・透析医療についても、当院が島内で唯一の医療提供機関となっております。

コロナ禍も3年を超え、感染症・結核医療についても中心的役割を果たしていますが、他の政策的医療など従来行ってきた医療を代替していただける医療機関が存在しません。全ての診療科が発熱外来などコロナ対応を行っており、職員への負荷が増した状態が長期にわたっています。

当院を取り巻く環境には厳しいものがありますが、引き続き職員一同力を合わせて「地域の皆さまに寄り添う病院」として、良質かつ適切な医療を提供し、皆さまから親しまれ、信頼される病院づくりに努めてまいりますので、引き続きご理解とご支援のほど、なにとぞよろしくお願い申し上げます。



小豆島中央病院企業団
企業長 佐藤 清人

- 企業長新年度のご挨拶
- 新型コロナウイルス感染症患者の受け入れ病棟について
- 糖尿病だより
- 院内保育所「あずきっこ」が認可保育所となりました
- 新型コロナウイルス感染症対策チームの派遣
- 第41回瀬戸内海タートル・フルマラソン全国大会に出場しました



新型コロナウイルス感染症患者の受け入れ病棟について

視察はコロナ入院患者が0名の時に行っているよ！

普段は入室不可の感染症病棟へショードくんが視察に行ってきました。

〈感染症病棟までの順路〉



① コロナの疑いを感じたら、病院へ連絡し、看護師の指定した時間に発熱外来へ向かいます。



② 1階発熱外来にてPCR検査または抗原検査を受けます。

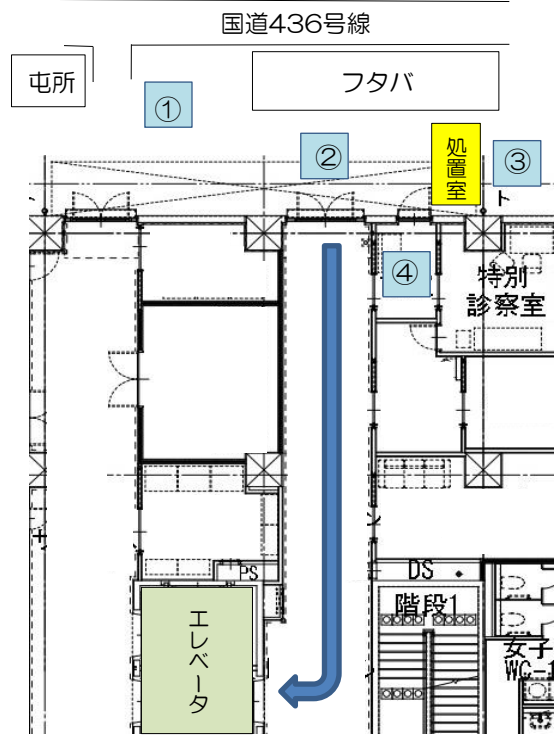
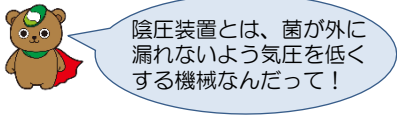
〔1階発熱外来付近見取り図〕



③ コロナ陽性者で65歳以上の高齢者や重症化リスクのある方は、医師の判断のもと、処置室で血液検査、レントゲン室にてレントゲン撮影を行います。



④ 医師より入院が必要と診断された場合は、患者さんに入院の準備をお願いします。



⑤ 入院準備が整うと5階感染症病棟へ案内します。自力で歩くことができない患者さんにはアイソレータ（陰圧ストレッチャー）やポータブルアイソレータ（陰圧車いす）を使用します。



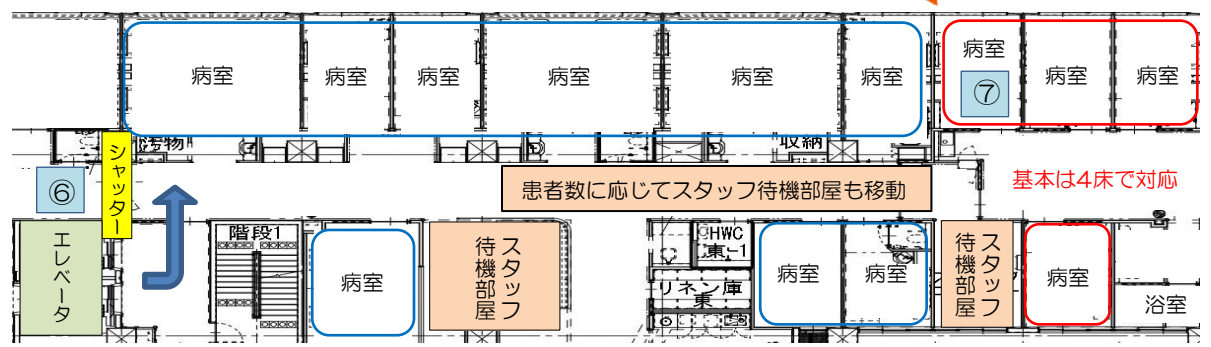
⑥ 発熱外来のエレベータより5階感染症病棟へ移動します。

⑤ 院内を通らずに直接病棟へ入室可能



⑦ 病室はトイレ付きの個室です。シャワー浴は順番に声をかけていきます。※浴室は都度清掃に入っています。

〔5階感染症病棟見取り図〕



令和5年3月13日からマスクの着用は個人の判断となりましたが、当院ではマスク着用を継続しています。周囲の人に感染を広げないために受診時や付き添いの際は、マスク着用にご協力ください。

糖尿病だより



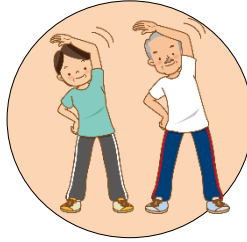
① 糖尿病について

糖尿病は、生活習慣病の一つであり、血糖が高くなる病気です。血糖値が高くなると、尿に糖が出るようになります。これが病名の由来です。血糖値が何年間も高いままで放置されると、全身の神経や血管が傷つき、心筋梗塞、脳梗塞などの「重篤な合併症」に繋がることもあります。主な治療法として食事療法、運動療法、そして薬物療法がありますが、ひとりひとりの病状に合わせてこの3つを組み合わせる治療を行うのが基本です。

食事療法



運動療法



薬物療法



② お薬について

糖尿病のお薬には様々な種類があります。

- 血糖値を下げるインスリンを外部から補う薬
インスリン注射薬
- すい臓からインスリンを出す薬
スルホニル尿素 (SU) 薬、DPP-4阻害薬、GLP-1受容体作動薬 (注射薬) 等
- インスリン抵抗性(インスリンが効かない状態)を改善する薬
ビグアナイド (BG) 薬、チアゾリジン薬
- 腎臓から尿へブドウ糖を出す薬
SGLT-2阻害薬
- 糖質の吸収のスピードをゆっくりさせ、高血糖を改善する薬
 α -グルコシダーゼ阻害薬



～これらのお薬を症状に合わせて使用します～

③ お薬を使用するタイミング

お薬の種類には、使用するタイミングできちんと作用してくれないものもあります。用法をきちんと守ってお薬を使用することが重要です。

- <食前> 食事の30分前
- <食直前> 食事の5～10分前
- <食後> 食事後の30分以内
- <食間> 食事終了の約2時間後 (空腹時)



お薬は忘れずきちんと飲むようにしましょう!!!

🍀 院内保育所「あずきっこ」が認可保育所となりました。🌸

小豆島中央病院開設以来、病院が設置者となり運営業者に保育所運営を委託していましたが、令和5年4月から、社会福祉法人清見福祉協会を主体とする認可保育所として運営することとなりました。当院としては設置者・運営者が変わっても利用者に不利益が生じないようできる限り現在のあずきっこの保育環境を維持できるように移行を進めていきます。

～清見福祉協会で大切にしていること～ 🐣

家庭的な雰囲気大切にしながら、元気いっぱいの子供たちを中心に、家庭、保育所、そして地域と一緒に成長できるような保育所を目指しています。



新型コロナウイルス感染症対策チームの派遣 令和5年2月9日（木）

当院の感染制御実践看護師 唐橋 真理子が、クラスターの発生した施設に赴き小豆保健所と共にゾーニングや感染対策指導を行いました。新型コロナウイルス感染症クラスターの詳細な経過報告とその都度の対処報告を受け、施設内を観察し注意点を報告しました。室内換気・行動制限等行いながらの感染対策は思う様にはいかず、高齢者介護施設の対応の難しさを考えさせられました。



第41回瀬戸内海タートル・フルマラソン全国大会に出場しました。

令和5年1月22日（日）土庄町にて、3年ぶりにタートル・フルマラソン全国大会が開催されました。当院からは医師、看護師、事務員等さまざまな職種の職員が参加しました。男子10kmマラソンの部では、当院職員が見事優勝を掴みました。5月には「第46回小豆島オーリーブマラソン全国大会」も開催されます。引き続き上位入賞や完走を目指し練習に励みます。

